大塚敬節
矢数道明 責任編集

近世漢方医学書集成

67

香川修庵 三

名著出版刊

NANJING UNIVERSITY OF CHINESE MEDICINE
南京中醫藥大學
1954
南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 67 香川修庵(三) 第III期 全40巻

昭和五十七年六月二十三日 発行

編者 大塚敬節 矢数道明

発行者 中村安孝

発行所 株式会社 名著出版
東京都文京区小石川三ノ十ノ五
電話東京(八一五)一二七〇番(代)
振替口座 東京七—一〇七四五番

予約限定版

製版所 株式会社 日本写真製版社

印刷所 有限会社 伊藤印刷

製本所 辻本製本所

落丁本・乱丁本はお取替えします。

3347—0965—8324

責任編集

大塚敬節

矢数道明

編集委員

山田光胤

寺師睦宗

大塚恭男

矢数圭堂

松田邦夫

凡　例

一、本書第六十七巻「香川修庵㈢」には、『一本堂行余医言』巻十三～巻十九までを収録した。

一、本書は全て影印版によって収録したが、影印にあたっては次のようにした。

イ、新たに柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮少し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

ニ、底本にある蔵書印及び書き込みは省略した。

ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

一本堂行余医言　版本　（天明八年版）　二十二巻二十二冊（大塚恭男所蔵）

一、本書収録書目の解題については、第六十五巻「香川修庵㈠」に記した。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

香川修庵 (三)

目次

凡例……三
一本堂行余医言
巻之十三……三
胃反……五　附字弁……二七
嘔吐……二九　附字弁……五四
悪心……五七　噫……六一
吐酸……六七　附字弁……九四
巻之十四……一〇一
水脹……一〇三　附字弁……一七一
附治験……一七四
巻之十五……一八三
鼓脹……一八五　附字弁……二三五
巻之十六……二三七
疸……二三七　附字弁……二七〇

治法……二七三
巻之十七……二七五
癃……二七七　附字弁……三〇七
胞閉……三〇九　痛……三一九
附字弁……三八九
巻之十八……三九五
痱……三九七　附字弁……四六一
痿……四六九　痙……四九三
附字弁……五一五　痺……五一九
附字弁……五七七
巻之十九……五八三
傷風寒……五八五

一本堂行余医言　㈢

一本堂行餘醫言

十三 胃反嘔吐噫吐酸惡心

修琴堂藏書
第厂史36號

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一本堂行餘醫言卷之十三

平安　香川修德太冲父　著

胃反

胃反者謂食自胃中而反吐也夫胃反之證有能食者有少食者俱是水穀入于胃中或滿或痛憒憒悶悶不得安穩故吐而後却快或有食了直吐者或朝所飡者至暮夜乃吐或晩間所食至翌早乃吐或經一日夜而後吐或其所食者吾所常嫌惡則心意難忘不吐不止或喫難化熟

者有暫輙吐此以其胃氣為癥疝所犯侮元氣徒事外禦無暇内治故觀其所吐者全存生態無見熟糜此本非胃無生機由受癥疝之外攻而不能内化水穀也蓋癥疝之生也非一朝一夕之故皆因元氣之不充矣元氣纔有所不至處即為空氣瘀汁始有渣滓留滯一日不至一點增加二日不充二滴殘著月復一月年復一年遂得結成如桃杏如碗拳如盂盤乃至有異形奇狀不可名象者或有生蟲者其既如是則元氣所運日徐月遲以致全身灌培

有所不足而後上下表裏諸證蜂起其原始于一胃元之鬱滯矣胃元既如此朝暮所納之食欲速化而可得乎況且癥疝靠于胃外壓抑推盪胃内或為之窄狹少食乃滿以是為常者在癥人固多有之而其少食輙滿者亦是胃内不得穩受為癥疝所推動逆上而吐出間有胃内不窄挾能喫常食者亦被癥疝推還無甚苦悶輙直吐出又有所有味能喫之食既納胃内心中懊憹不安穩用指探咽喉激嘔吐後纔快了者日日如是探吐將去則遂成熟路

終成胃反者又有反吐之甚併水而吐者又有水食俱吐其水中如混紫菜及一升餘者蓋胃反之催固非一旦漸漸而然有日日吐者或有經二三日四五日如無吐苦卒然復吐者有既止而或一二月復吐者究竟以有癥塊疝氣之結滯在胃外也胃外常有勁敵欲間而侵故胃中守禦有些怠慢則敵癥乘虛攻圍胃氣雖拒敵勢固强而兵卒難支遂被追逐奔走亡去雖謀再運糧以守禦而攻圍未退仍在城外重來運聚之兵糧復被逐而散走數回

如此則胃元竟疲奔命保守之策無所施用欲不陷而可得乎當是之時也筭安出耶便無他也獨非全借艾相國之富强而時任熊將軍之膽畧則不能一退癥敵復安胃壘也蓋頻頻敗弱之胃豈亦區區乾枯藥物之所能治救哉古今以胃反與噎證之吐為一者非也噎證非五十以上則無之故噎證而吐者固必死不治但胃反少壯男女皆有之在小兒則哺乳是也故治得其法者可起也又雖以胃反與噎證為二條而至于吐則混而無分雜矣或至

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com